



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2012年8月27日)

ポイント

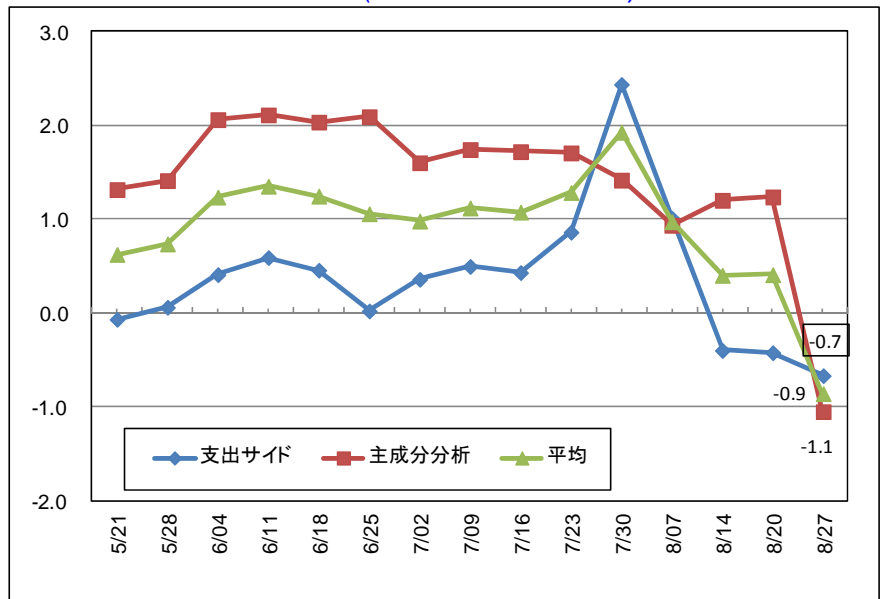
▶先週は、7月の貿易統計、企業向けサービス価格指数、及び6月の全産業活動指数が更新された。これらのデータは純輸出の予測値に影響を及ぼす。

▶7月の貿易収支(季節調整値)は、17ヵ月連続の赤字となり、前月から2.5%増加。貿易赤字はトレンドとして緩やかな減少傾向にあるが高水準で推移している。2012年後半の最初としては、よくないスタートである。

▶貿易収支を地域別に見れば、対米黒字は前年比6ヵ月連続で増加しているが、伸びはこの2ヵ月急減速。対アジア黒字は大幅に減少し、17ヵ月連続のマイナス。対EU貿易収支は3ヵ月連続の赤字となった。

▶今週のCQM(支出サイド)は、7-9月期の実質GDP成長率を、内需は緩やかに拡大するが、純輸出は縮小するため前期比-0.2%、同年率-0.7%と予測。先週の予測(-0.4%)から下方修正された。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2012Q3 (%、前期比年率換算)



<低迷する純輸出により、7-9月期の実質GDPはマイナス成長を予測>

先週(8/20-8/24)は、7月の貿易統計、企業向けサービス価格指数、及び6月の全産業活動指数が更新された。これらのデータは純輸出、民間企業設備デフレータの予測値に影響を及ぼす。

貿易統計(通関ベース：速報値)によれば、7月の貿易収支は-5,174億円と2ヵ月ぶりの赤字となった。季節調整値は、17ヵ月連続の赤字(-3,257億円)となり、赤字幅は前月から2.5%増加した。貿易赤字はトレンドとして緩やかな減少傾向にあるが高水準で推移している。2012年後半の最初としては、よくないスタートである。

貿易収支を地域別に見れば、対米黒字は前年比+1.4%と6ヵ月連続で増加しているが、伸びはこの2ヵ月急減速している。対アジア黒字は同-52.8%大幅に減少し、17ヵ月連続のマイナス。対EU貿易収支は3ヵ月連続の赤字となった。

7月の輸出は前月比-1.1%、輸入は同-0.9%といずれも事前予測を下回った。輸出は3ヵ月連続、輸入は2ヵ月連続のマイナスの伸びを記録した。新たな実績値を反映した7-9月期の実質財貨・サービスの輸出は前期比-1.5%(前回予測-0.6%)、実質財貨・サービスの輸入は同+0.9%(+1.6%)といずれも下方修正されている。その結果、7-9月期財貨・サービスの実質純輸出は9.767兆円(前回予測：10.093兆円)に下方修正された。

新たなデータを更新した今週(8/27)のCQM(支出サイド)は、7-9月期の実質GDP成長率を、内需の拡大は緩やかにとどまるが、純輸出は縮小するため前期比-0.2%、同年率-0.7%と予測する。先週の予測(-0.4%)からは下方修正である。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
 ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
 ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550